民報 おうしゅう 読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目59
Tel 24-2021
Fax 24-2049

市の防災対策 要支援者の安全確保のため個別避難計画の策定を促進すべき！

9月定例議会が8月28日開会され、9月1日からは、一般質問が始まりました。日本共産党奥州市議団は、市民のいのち・くらしを守るために、防災対策や医療問題、中小企業振興条例などを取り上げ奮闘しましたので、順次お知らせいたします。

要配慮者のための避難行動要支援者名簿の整備、個別避難計画の作成はどのような状況か…

千田美津子議員は、7月に発生した熊本地震や、8月に入り全国各地で頻発している豪雨災害等から市民の命を守るための体制整備が重要だとして、市の防災対策について、「①当市における避難行動要支援者名簿の整備と個別避難計画の作成状況②8月1日レベル4土砂災害危険警報発表に伴い水沢の黒石地区や前沢白鳥舘地内での一時孤立が発生したこと」等について質問。

1094名の要配慮者名簿と個別避難計画を作成。前沢白鳥舘などで一時孤立化が発生したことは非常に重く受け止めている…市長



郷右近浩市長は、「今年3月末で、75歳以上の一人暮らしの方などを対象として、1094名の方について、避難支援者や連絡先、避難方法を記載した個別計画を作成している」「レベル4土砂災害危険警報発表に伴い人的被害はなかったが、水沢の黒石地区や前沢白鳥舘地内での一時孤立化が発生したことは非常に重く受け止めている。今回のケースについて、水位など様々な情報を検証するとともに、情報伝達体制、現地確認体制、孤立化地域対策などの見直しを進めて、市民の安全確保に努めたい」等と答弁。

当市の要支援者名簿と個別避難計画の整備・策定は7％程度であり、必要な人に支援できるよう促進すべきでは…

千田議員は、「要支援者名簿と個別計画の作成について、対象者数が1万3711人であり、計画策定が7％程度にとどまっていることから、支援を必要とする方が無事に避難できるよう、個別避難計画の作成を促進すべき」と指摘しました。

地域医療の充実を



千田議員は、安心して住み続けられる地域医療の課題として、「（仮称）奥州市地域医療グランドデザインの策定」「水沢病院の耐震補強」「奥州市立医療施設の役割と見通し」について質問。

（仮称）奥州市地域医療グランドデザインは、いったい誰のため？何のためにつくるのか？

千田議員は、「市長が、医療関係者による奥州市地域医療検討会議の開催をもって11月に最終とりまとめを行い、これを参考に（仮称）奥州市地域医療グランドデザインを策定する」と述べてきたことについて、「医療関係者による検討を否定するものではないが、市民意見の聴取もなく、これでは誰のための地域医療か、何のためのグランドデザインかはなはだ疑問だ」と指摘。

市民の意見を聞いた上で、3月を目途に奥州市地域医療グランドデザインを策定したい…市当局

これに対して、担当部長は、「最終とりまとめをするが、バックデーターをまとめるために、市民の意見を聞いた上で3月までにグランドデザインを策定したい」等と述べました。

奥州市の指定避難所151箇所のうち、冷暖房設備は54箇所、暖房設備のみが84箇所。5箇所、冷房もさることながら、暖房の設置は急務では…

千田議員は、指定避難所の冷暖房設備の設置について、奥州市の設置率が低いことから、「冷房もさることながら、せめて暖房の設置は急務ではないか」と質問。これに対して、担当課長は、「電気がなくても使用できるダルマストーブを何台かストックしており、対応している」等と答えました。千田議員は、さらなる努力を求めました。

水沢病院の中途半端な耐震補強は、税金の無駄使いでは…

千田議員は、「市長が多額で工期がかかる大規模改修は行わないとしている」ことについて、「施設の老朽化が激しく、中途半端な耐震補強は税金の無駄遣いになりかねない」と指摘。

これに対し、市長は、「安全に問題がある以上、果たしてこのままで良いのか疑問。地域医療の在り方と並行して進めたい」等と述べるにとどまりました。

第71回岩手県母親大会



写真は、講師の松原文枝さん

8月30日、花巻市のなはんプラザで開催された岩手県母親大会には、県内各地から600人以上が参加しました。当日は、「子どもは未来の宝」「日本の農業の再生を」など、6つの分科会と、映画「黒川の女たち」が上映されました。

講演は…映画「黒川の女たち」の監督・テレビ朝日プロデューサーの松原文枝さん

午後からは、地元花巻の「矢沢コールファミリー」の皆さんによる合唱。記念講演は、映画「黒川の女たち」の監督であり、テレビ朝日プロデューサーの松原文枝さん。松原さんは、「ふたたび戦争への道を歩まないために～いまこそ憲法九条を守り抜こう～」と題し、「黒川の女たち」制作のきっかけ、戦争の犠牲となった女性たち、取材で出会った女性たちを語り、憲法による民主主義が危うくなっていること。再来年の参議院選挙で3分の2を取ると憲法改正案の発議が可能になると指摘。みんなで声を上げようと呼びかけました。